

財政通信 No.4

平成18年3月

大変ご無沙汰いたしました。m(_ _)m 財政課長です。11月から平成18年度の予算編成作業に追われ、(@ @) / 血眼状態！課員一同全力で取り組みました。年々厳しくなる予算編成、みなさんの協力でなんとか乗り切ることができました。と思ったら、一息つく間もなく議会が始まりまして、「財政通信」の発行が大幅に遅れてしまいました。(単なる言い訳です。すいません。)

17年度もあとわずか、厳しい寒さが続くと思ったら、もう春、職員のみなさん、年度末の多忙な時期、体調に気を付けて頑張ってください。

財政課では、約4カ月にわたる繁忙期を終え、決算対策へモード切り替えています。17年度の決算で、基金をいかに戻すか、繰越金はいくら出るか。これが18年度の財政運営に大きな影響があるんです。

みなさん、今一度、予算執行の総点検をお願いします。

ちょっと余談ですが、平成18年度予算編成物語を一席。

思い起こせば、11月初旬、各課の要求が出そろい、早速集計。電卓が止るのを見て、「差し引き(不足額)いくら？」との問いに「33億2千万」という答(汗)。「なんとかやるしかあんめえ」と言ってはみたものの、厳しい状況のなかのスタートとなりました。

担当の要求内容チェックに引き続き、ヒアリング開始。各課の要求スタンスがまちまち。

「おっ、頑張ってくれたなあ」、「全く変わんねえなあ」、「なにこれ、ふざけんな」私の反応もまちまち。

査定をまえに「何とかいい手はないか」と担当に聞いてみる。「わたし、魔法使いじゃないですから」と冷たい反応(ToT)

そうでした、地道な査定が大切、「よ～し」と気合い入れ査定スタート、これがなかなか進まない。「おっ、これ補助あんじゃねえか？」「三位一体で廃止です。」「…」、「あれっ、これやけに増えてねえか？」「制度改正です。」「…」、「これ違うんじゃないか？」「もう再計算済みです」「…」という具合に悪戦苦闘2ヶ月間、ようやく財政課査定原案完成。v(^o^)/

「よく査定したからな」と思いつつ集計を待つ。「差し引きいくら？」との問いに「14億2千万」という答。「運動公園に基金入れれば12億か」と言ったとたん「もう入れてます」と悲しいお知らせ、「じゃ16億か」「当たり前」、「当たり前じゃねえよ、特定目的基金入れるといくらだ」「12億」(ToT)

その後、市長査定、復活調整、もうひと山越えて予算案決定！でも、基金投入16億5千万円すでに、基金をいかに戻すか考え始める悲しい性。

「財政課に切られた」と思っている人、財政課もつらいんです。皆さんの熱意もわかりますし、十分な予算も確保したい。でも、この厳しい時期を乗り切るためには、鬼にならなければならぬ場合もあるんです。特に、前例踏襲や増分主義がぬけない人には、厳しい態度で接したと思います。これも与えられた立場がゆえ、理解をお願いします。

予算は、削るだけでは、とても組めません。あらゆる手法を考え抜いて、借金もギリギリしました。返済も先送りしました。収入も目一杯まで(>_<)見てしまいました。(危険ですがやむを得ません。)

さらに、医療費や給付費などの社会保障費も伸びを抑えたり、事務事業の先送りもしています。全体で2億円くらいは、補正予算で対応しなければなりません。そのためにも、17年度予算を少しでも多く残さないと…協力よろしくお願いします<(_)>

しかし、財政状況に春はくるのかなあ？

ここまで書いたところで、またまた中断！面目ないm(_)_m 議会への出席やらなんやらで…言い訳ですけど…

気がつけば議会終了。予算成立v(^o^)^v

そして、すでに頭はもっと厳しくなる19年度予算へ…4月からスタートですでは、18年度予算の概要についてお知らせします。

平成18年度予算の概要

平成18年度の予算総額は377億1,670万2千円と、前年度当初比11億5,450万円(3.2%)の増となりました。一般会計は同7億1,400万円(3.3%)の増、特別会計は同4億4,050万円(2.9%)の増となっています。市長のマニフェストも反映して、久しぶりの積極型予算！となりました。

当市の実力以上の予算です。もう余裕はありません。有効に使ってください(^)/

(単位:千円, %)

会 計 別	平成 18 年度	平成 17 年度	比 較	増減率	
一 般 会 計	22,264,000	21,550,000	714,000	3.3	
特 別 会 計	国民健康保険事業	6,176,000	5,818,100	357,900	6.2
	公共下水道事業	2,326,500	2,431,800	105,300	4.3
	老人保健事業	4,276,000	4,182,800	93,200	2.2
	公共用地先行取得事業	2	2	0	-
	農業集落排水事業	46,600	38,400	8,200	21.4
	介護保険事業	2,572,500	2,487,000	85,500	3.4
	介護サービス事業	25,800	25,900	100	0.4
	障害者支援費事業	29,300	28,200	1,100	3.9
	特別会計合計	15,452,702	15,012,202	440,500	2.9
総 計	37,716,702	36,562,202	1,154,500	3.2	

一般会計が大きく増額となっているのは、馴染小学校改築(7億円)や、総合運動公園建設(4.7億円)、(仮称)城ノ内地区公民館建設(2.4億円)などの大型事業を予算化したからです。(完成したら、大切に、積極的にそして長く使っていただきたいですね。)

「民生費」と「教育費」に重点(^_^)^v なんと教育予算は、牛久市の2倍です…

重点施策の「教育」と「子育て」についてはソフト事業を中心に手厚い予算配分を行いました。

「教育」では中央図書館の開館時間延長日数の増(19:00までの開館を週2日から週4日へ、会

社帰りに寄れますね)、ブックスタート(未満児に対する絵本配布,パパ・ママに読んでもらってね)の実施のほか、従来の魅力ある学校づくり推進事業に小中連携教育や地域人材活用事業を効果的に融合させ、新たに魅力ある学校・地域づくり推進事業としてスタートします。また、教育相談事業にかかる予算を増額したほか、教育効果の高い、学校図書館司書や少人数指導講師の配置も継続して行っていきます。(小中学生のみんな、勉強も大切だよ、頑張ろう！)

「子育て」では、児童手当の拡充(対象者を小学校修了前までに拡大,所得制限も緩和!)や乳幼児マルフク所得制限撤廃(小さなお子さんのいる方,良かったね!),学童保育時間の延長(お母さんたちが急いで帰らずに済むかな),出産費資金貸付事業の新設(助かるんですこれが)などにより子育て世代への支援を強化しました。v(^o^)v

このほか、「健康,安心・安全のまちづくり」では、総合運動公園を核とした「スポーツ健康都市」の実現を目指します。また、平成19年度に予定されている「ねんりんピック」の健康マージャン大会開催地となっており、これに向け準備を進めます。(地元代表がんばれ~)

若手職員の政策研究研修による提案も導入しました。『AED…自動体外式除細動器』の配備です。庁舎をはじめ5箇所に設置します。職員を含めた救命救急講習も実施しますのでその際は、協力を<(_)>

「にぎわい」では、中心市街地再生のための中核施設として、にぎわい広場の整備事業に着手するとともに、「コロッケのまち龍ヶ崎」の知名度アップに取り組みます。(おいしい コロッケでまちおこし)

特別会計が肥大傾向…(-_-)

特別会計では、国民健康保険事業,老人保健事業,農業集落排水事業,介護保険事業,障害者支援費事業が増額予算となりました。

国民健康保険事業(3億5,790万円,6.2%増)は加入者の増加及び一人当たりの医療費の伸びによるものです。老人保健事業(9,320万円,2.2%増)は対象者の減少を一人当たりの医療費の伸びが上回ったことによるものです。介護保険事業(8,550万円,3.4%増)では給付費の伸びに加え、制度改正に伴い介護予防関連予算(げんきあっぷ!応援事業など,高齢者の介護予防に努めていきます。)が一般会計から移行したことによるものです。(みなさん,健康には注意しましょう。私の血圧も下降ぎみ(^o^)ドーピングしてるけど…)

これらの会計は、これでも押さえ気味で、実際はもっと伸びそうです。補正でのやりくりも考えないと…(´・`)/

また、農業集落排水事業(820万円,21.4%増)は建設事業債の償還金の増加によるものであり、障害者支援費事業(110万円,3.9%増)は障害児通園事業における療育指導員等を増員して効果アップを目指すものです。

一方、減額予算となった公共下水道事業(1億530万円,4.3%減)は、佐貫排水ポンプ場既設ポンプ改修工事の終了や流域下水道維持管理費負担金の減によるものです。

あっと、予算額をそのまま羅列すると、金額が大きすぎてピンとこない人も多いと思いますので、一般家庭にたとえて見ましょう。

龍ヶ崎家の家計(一般会計ベース)

龍ヶ崎家の18年度の収入見込みは、お父さんの基本給(市税)が333万円(ちょっぴり上がりました)、ボーナス(交付税)が98万円(年々減っている)、そのほかに両親から生活費として(国・県支出金)77万円(おじいちゃん、おばあちゃんも厳しいと言ってます(ToT))、お母さんのパート収入(使用料・雑入など)が125万円、合計で633万円です。

これに対して支出見込みは、教育費が140万円。お姉ちゃんの高校入学の際に施設整備費として24万円納付(馴染小改築)しなければなりません。お兄ちゃんの学習塾の月謝(小中学校経常経費)、おばあちゃんのパソコン教室(社会教育)に加えて弟がスイミングスクール(保健体育費)に入る予定です。

弟の学童保育料、妹の保育料や、おじいちゃんの介護サービス利用料(介護特会繰出金)、医療保険の支払い(国保・老保特会繰出金)で181万円、ごみの処分(清掃費)や予防接種・健康診断(保健衛生費)で88万円、もう大変です。家のローン(公債費)106万円も払わなければなりません。ローンを借り換えて少し先延ばしにしてもらいましたが、まだ厳しいなあ〜 | |

お母さんは普段の生活費(総務費)を切りつめました、81万円が必要でした。古くなった車庫を建て替え(土木費)したら84万円、合計で751万円となりました。

このため、リフォームローン(起債)62万円を申し込みましたが、それでも足りなくて、定期預金(基金)を56万円解約しなければならぬ見込みです。

その結果、預金残高は110万円、ローン残高が1,000万円になります。しっかり者のお母さんもこの事態に、いよいよ最終手段、家族全員のお小遣い調査に乗り出しました。(お父さんには寄り道禁止が発令されました)

どうですか? イメージ湧きました?

~ ロード to 健全化 ~

予算重視から執行重視へ! お金は使い方が大切!!

予算は担当課が入念にプランニング・積算したうえで要求され、財政担当から市長まで十分な時間をかけて査定・折衝し、議会でも慎重に審議されたうえで決定されるものですから、多くの労力と時間がかかっています。そのため、予算獲得で一安心、あとは使うだけ…って考えてしまうこともあります。

ちょっと待って下さい、予算は使えばいいというものではありません。重要なのは「使い方」です。

予算は通常、前年度の10月頃に要求書作成が始まります。したがって、6か月以上後の状況を想定しながら予算編成が行われるわけです。ということは、今日執行する予算は、前年度に考えられたプランに基づくものであって、ひょっとしたら今日のニーズにあっていないかもしれません。

また、執行上新たなアイデアを思いついたり(**アイデアはいつ生まれるかわかりません。特に実務を担う係員レベルの発想に期待しています。**)、さらには状況が変わって必要ないものが見つかるかもしれません。

平成18年度予算編成にあたっては、11の課等から27件、約3千万円のインセンティブ予算執行にかかる、増収・節減の報告がありました。そのうち約1千7百万円を各課等に還元し、残りを新規・重点事業に充てることができました。

若手担当者の斬新な手法、委託業務のコストを詳細に検討してくれた女性係長、手法の転換を決断した管理職、頑張ってくれた方、ご苦労さまでした。

でも、36の課等のなかで、報告してくれたのが11とはちょっと少ないと思います。特に「ウチは無いから」「余ったら返すから、とりあえず」「外部がからむから」と見直しに消極的な課(人)、「来年、検討するから」と毎年言ってる課(人)・・・

全庁・全職員そして全市民の努力・協力がなければ、財政健全化は達成できません。一人一人の取り組みから全市民の取り組みへ。先頭に立つのはあなたです。頑張ってください。

18年度には、収支見直しを見直して、第二次(19～21年度)の財政改革推進プログラムを策定します。協力してください。

次号では、平成17年度の決算見込みをお知らせする予定です。

では、また次号で・・・(^o^)/~